

平成30年度 大阪府立伯太高等学校運営協議会 第1回議事録

平成30年6月9(土) 10:00～12:00

記録：楠本

協議会委員参加者

山下 真理 (PTA会長) 運営協議会会長  
田中 恒子 (地域教育相談員)  
富永 順三 (㈱ナレッジパートナー代表プロデューサー、本校4期生)  
西田 芳正 (大阪府立大学人間社会学部教授)  
仲島 浩 (和泉市立和泉中学校長)  
山野 正広 (和泉市総務部人権・男女参画室長 兼 人権国際担当課長)  
運営協議会副会長

- (1) 校長挨拶
- (2) 委員・校内事務局紹介 会長・副会長 選出
- (3) 平成30年度学校経営計画
- (4) 校内授業見学
- (5) 本校教員による生徒状況、校内体制等の報告
  - 1) 進路指導部 (松本教諭)
  - 2) 生徒指導部 (北埜教諭)
  - 3) 本年度入学生 (41期生) の状況 (細川首席)
- (6) 平成31年度使用教科書について
- (7) 意見交換
- (8) 校長謝辞

[主な質問、意見等]

○は質問、 →は答え、 ●は意見や感想

- 短期大学が縮小されている中で、(38期生の進路結果で) 短大進学者が例年に比べて増加したのはなぜか。
  - 保育系への希望者が多く、(専門学校より) 短大を選んだ。
- 進路結果の表記の中で、自衛隊への就職を公務員の中に入れているが、分類を分けたほうがよいと思う。
- 本校卒業後の進路について、進路先で中退した生徒についての実態やその理由を把握してほしい。
- 進路先での生徒の状況については、調査しているのか。
  - 就職した生徒については、電話等でどのような状況か、確認している。また、来校される学校や企業に、本校生の様子を聞いている。
- 卒業後の調査はなかなか難しいと思うが、断片的なデータであってもこういうデータを蓄積すれ

ば、今後の進路指導に生かせるのではないか。

- 高校生活途中で進路変更した生徒については、どこに行っていてどうしているのか、実態を把握している必要があるのではないか。
  - 教育委員会からの調査がある。本校生の場合、転学は私学の通信制が多い。公立高校への転学はいろいろな条件がある。退学した生徒については、就職目的で辞める生徒もいる。また、時期を置いて、編入する生徒も少なからずいる。不登校の場合は、自宅で様子をみているケースがある。
- 授業見学で生徒を見てみると、頭髪、服装等きちんとしているし、落ち着いている。あまり寝ている生徒もいないし授業も静か。(非常によくくなっている)びっくりした。
- (以前は遅刻が多かったが) みんな遅刻しないように早く来ている生徒が多くなった。
- 入学してから卒業する人数の割合はどのくらいか。
  - 9割は卒業している。
- 職場でも休みをとるものが多いが、学校生活の中で、一月に4日休んでも進級・卒業できるのか
  - 欠席日数だけでいえば、進級・卒業できる。
- 今年度の高校入試の競争率はどのくらいであったか。
  - 1.05倍だった。
- 性については、間違った情報や知識があるので、生徒に、性についての正しい情報を与えたり、性に関する講演をする必要があるのではないか。
  - 昨年度は2年生で性教育の講演を行った。今年度は1、2年生で実施します。
- 卒業後の進路では、就職が多いのか。
  - 卒業生250人中、75人なので多い。
- 学校行事の中にある講演会で外部の講師を招くのは自由か。
  - 自由
- それなら、地域の人や卒業生を講演会に招いたらどうか。生徒も聞きやすいし、関心があるのではないか。卒業した先輩を呼んだら来てくれるのではないか。
- 教科書の選定についてはどのようにしているのか。
  - 7月までに選定しなければならない。選定については、個人ではなく教科会議等複数名で決めている。
- 選定された教科書のリストを出してほしい。
  - 次回に出す。
- すべての教科で、教科書があるのか。
  - 総合学科では、学校設定科目が多く、これについては教科書がない。